

# さんま通信

## 秋

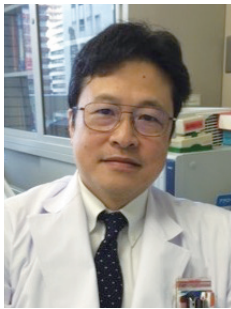


厚生中央病院だより 第70号 2022年



## 副院長就任のご挨拶

副院長・脳神経外科部長 秋元 治朗



本年8月1日より副院長を拝命いたしました、脳神経外科部長の秋元治朗と申します。

私は2018年8月1日に大学病院から厚生中央病院に赴任し、丸4年が経過しました。その間、土健保の保険者の方々はもちろん、西南部医療圏の患者様を中心に脳神経外科医療を提供して参りました。脳神経外科疾患は脳卒中、脳腫瘍、脳外傷から脊椎脊髄疾患、てんかんなどの機能性疾患、先天性疾患まで多岐に亘りますが、それぞれの分野で診療ガイドラインに準拠し、大学病院レベルの治療技術を用いて、患者様に最善の治療を提供させていただいたつもりです。その結果、徐々に当院の脳神経外科の積極性や医療レベルの高さが認知されるに至り、外来診療は勿論、手術を含めた入院診療の業績も年々上昇するに至りました。勿論、コロナ禍による医療の逼迫は、当院の脳神経外科医療においても大きな影響を及ぼしましたが、私どもはその時々に応じた最善を目指し、臨床に尽力してきた次第です。コロナが落ち着きましたら、より一層の積極性を持って、救急医療を含めた臨床に邁進したい所存です。

副院長に就任して私が行いたいことは、当院の存在意義を高めることに尽きます。当院は60年を超える歴史を有し、目黒区三田という都内の一等地に立地する総合病院です。臨床各科のほとんどが大学病院からの派遣医師であり、日本最先端の医療が行われ、その治療成績も他の有名病院に遜色無いものです。私は今後、当院の臨床実績を土健保組合の方々はもちろん、地域の医療機関、住民の方々に、より知っていただき、信頼を持って紹介、受診していただける医療機関としてゆきたいと考えております。そのためには、病院の広報活動はもちろん、医師の学術活動などを積極的に行い、当院のブランド力を向上させることが重要と考えます。同時に医療安全文化を職員に根付かせ、厚生中央病院に行けば、安全で安心な最先端医療を受けられるという意識を抱いていただける様に、病院の改革に尽力したいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

### 目次 contents

副院長就任のご挨拶 ..... 1

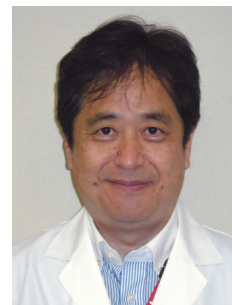
産婦人科医師の紹介 ..... 2~3

地域連携広報室からのお知らせ ..... 4



目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

# 産婦人科医師の紹介



## 産婦人科

部長 樋田 一英

皆さんこんにちは。産婦人科の樋田一英と申します。2022年7月1日に聖路加国際病院から移動して参りました。どうぞよろしくお願いたします。前の職場では、主に子宮がん・卵巣がんの手術や、子宮筋腫や卵巣嚢腫に対する腹腔鏡・ロボット手術等を行っておりました。簡単な自己紹介をさせていただくと、出身は福岡県で卒業大学は宮崎医科大学です。

平成2年に大学卒業後、聖路加国際病院で初期研修を受け、その後、宮崎医大、国立がんセンター、東京女子医大、静岡がんセンター等を経た後、聖路加国際病院で勤務しておりました。

趣味は、旅行をするのが好きです。いつも同行者が見つからないので、一人旅になってしまうことが多いです。あと、ラーメン二郎に行くのも楽しみの一つです。麺半分と言って頼んで食べています。あとは飲みに行くことくらいですか。この文を書いている、自分の趣味の少ないことに気づき悲しくなってきました。もしかしたら、仕事が趣味という寂しい状態なのかもしれません。

医師33年目になりますが、厚生中央病院では、腹腔鏡手術を中心に、多くの病院で学んできたことを遺憾なく発揮したいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

当院の産婦人科診療に関して、私は、麻酔科の協力のもと無痛分娩（和痛分娩）がもっと増やせたらいいなと思っています。前にいた聖路加国際病院では、年間1500件の分娩がありましたが、その8割以上の方が無痛分娩希望でした。24時間対応の無痛分娩導入後は、同院での分娩希望者が殺到し、現在では厳しい新患の受診制限を行なっている状況です。高額な分娩費用かかかるにも関わらずです。そのことを見ても、世間での無痛分娩への要求は非常に高いのが現状と思われます。そのニーズをうまく取り込み、多くの方が厚生中央病院で無痛分娩を受けられるように協力していきたいと存じます。

もう一つ思っているのは、内視鏡手術の強化です。すべての外科系の科で共通のことですが、近年、低侵襲手術、特に内視鏡手術の進歩は目覚ましいものがあります。婦人科の分野でも、子宮全摘や卵巣の良性疾患の手術はほとんどが腹腔鏡手術で可能になったといっても過言ではありません。10年前では考えられなかった状況ではないかと思えます。日々医療の進化は激しいですが、学会などで学び、世の中の進歩に置いてかれないように努力し、遠くの大学病院などに行かなくても、地元の厚生中央病院で、大病院に遜色のない内視鏡手術を提供できたらいいなと考えております。

産婦人科 医師紹介

| 氏名            | 認定資格   | 専門分野                                       |
|---------------|--|--|
| 統括部長<br>池田 俊一 | 産科婦人科学会専門医・指導医<br>婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医<br>臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医<br>がん治療認定医機構がん治療認定医      | 婦人科腫瘍一般<br>婦人科癌の手術療法                       |
| 部長<br>樋田 一英   | 産科婦人科学会専門医・指導医<br>婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医<br>がん治療認定医機構がん治療認定医<br>産科婦人科内視鏡学会技術認定医（腹腔鏡）  | 婦人科腫瘍・内視鏡                                  |
| 副部長<br>神田 理恵子 | 産科婦人科学会専門医・指導医<br>生殖医学会専門医   | 産婦人科一般                                     |
| 医長<br>松田 美保   | 産科婦人科学会専門医・指導医<br>女性医学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医  | 産婦人科一般<br>女性医学                             |
| 里井 映利         | 産科婦人科学会専門医<br>女性医学会認定女性ヘルスケア専門医<br>新生児蘇生法専門コース認定医                                  | 産婦人科一般<br>女性医学                             |
| 坂本 絵璃子        | 産科婦人科学会専門医   | 産婦人科一般                                     |
| 中島 怜美         | 産科婦人科学会専門医   | 産婦人科一般                                     |
| 中村 華          | 産婦人科専攻医  | 産婦人科一般                                     |
| 川村 良          | 産科婦人科学会専門医・指導医<br>産科婦人科内視鏡技術認定医<br>生殖学会指導医<br>内視鏡外科産婦域技術認定医                        | 東邦大学医学部客員教授<br>婦人科内視鏡治療<br>不妊症<br>母体保護法指定医 |
| 医長<br>大垣 洋子   | 産科婦人科学会専門医<br>新生児蘇生法専門コース認定医<br>がん治療認定医機構がん治療認定医<br>認定産業医<br>生殖医療専門医<br>人間ドック健診専門医 | 産婦人科一般<br>不妊症<br>人間ドック                     |





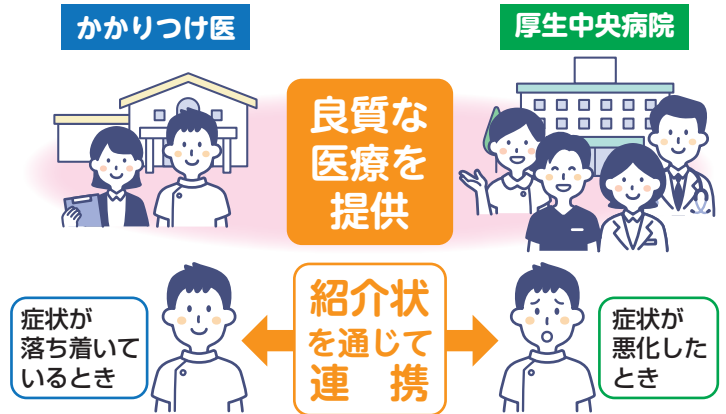
医療機関からの連絡専用の電話番号となります。お間違えの無いようお願いいたします。

総合病院 厚生中央病院  
地域連携広報室

TEL : 03-6863-2890  
FAX : 03-3713-8021  
月～金 9時～17時 / 土 9時～14時

厚生中央病院は多くのかかりつけ医と連携して、良質な医療が提供できるよう努めています。当院と連携している登録医療施設はホームページで検索できます。是非ご参照ください。

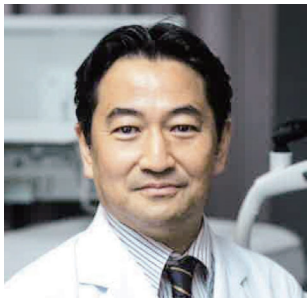
<https://kohseichuo.jp/sinryou/chiiki-renkei.html>



## 地域連携広報室の室長が変わります。



「One for all All for one」



新室長 森 秀樹

前室長の横山智央先生は厚生中央病院にとってなくてはならない存在でした。地域連携広報室における彼のリーダーシップは、2019年のラグビーワールドカップでチームをまとめるリーチマイケルのような姿でした。またCOVID-19対策チームのリーダーをされていた時の姿は、まさに名作ドラマ「仁」に登場する南方先生を見るようでした。その横山先生が退職され、連携室を含めて病院全体が失意のどん底にあります。

そんな中で私にできることは、横山先生の築いた連携室の良き伝統を引き継ぐため、厚生中央病院の理念に立ち返り、心の通った温もりを感じる医療が提供できるように、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽することです。微力ではございますが、地域と連携して良質な医療が提供できるよう尽力してまいります。宜しくお願い申し上げます。

## 地域で支えるそれぞれの最期



私の父は在宅で最期を迎えました。地域の多職種の方々に支えられたよい最期だったと思います。日本は近い将来、多死社会を迎えることが予想されています。最期を迎える環境も多様化しています。一人ひとりが幸せな最期を迎えるために、地域がどういった取り組みをすべきかを考えなくてはなりません。

人生を締めくくるかけがえのない最期の時間を、当院がいかに支援できるかを考えていきたいと思っています。  
(文責 森 秀樹)



厚生中央病院 **さんま通信** No70 2022

発行元：総合病院 厚生中央病院 地域連携広報室

〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7  
TEL : 03-3713-2141 FAX : 03-3713-8021  
E-mail: renkeisitu@kohseichuo.jp  
URL <http://www.kohseichuo.jp>